



福島市小中学校PTA連合会

福島市連P会報

ゆきうさぎ

Vol. 81
2022. 3. 5

〔発行〕
福島市小中学校PTA連合会
会長 齋藤 友則

〔編集〕
広報委員会
委員長 齋藤 智之

〔印刷〕
株式会社クサカ印刷所
福島市東浜町7-35

ガスバーナーの使い方を中一で学習します。子どもたちは教科書を見て説明を聞いた後、実際にマッチを擦る→火が点く→「熱っ」「きゃー!」と叫ぶ→火の点いたマッチを放り投げる、となったりします。熱い・焦げ臭いという体験を通してマッチや火を実感します。

ご家庭でも、自然や身の回りの物事を「見る・聞く・味わう・嗅ぐ・触れる」の五感を生



コロナ禍だからこそ ご家庭での体験活動のススメ

福島市小中学校PTA連合会

会長 目黒

満 (信陵中)

かした小さな体験活動に挑戦してみようというか。

今年の冬は大雪。雪の日には一緒に雪の粒を虫眼鏡やルーペなどで見てみましょう。素敵な結晶が見えます。自然が創り出す美しさを実感できます。

外食を控え目にしているご家庭では、スパーで尾頭付きのアジやサバを買ってきて、一緒に三枚おろしに挑戦してみましよう。ひれやぜいごの鋭い部分と柔らかい内臓に触れる・嗅ぐ、焼いたり煮たりすればおいしさを嗅ぎ・味わえます。命と食を実感できます。



日頃よりPTA活動へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年度も昨年度より続くコロナウィルス感染症の影響により多くの活動が制限され、この二年間で保護者が学校へ行く機会が大きく減り、学校行事などにおいて子どもたちと関わることも、また、子どもたちの親として色々なことを学ぶ機会が少なくなっていました。親同士



今年度を振り返って

福島市小中学校PTA連合会

会長 齋藤 友則 (福島第一中)

の繋がりがもたらした。学校、保護者、地域、それぞれの繋がりが「薄く」なってしまうといういかなあとの心配をしています。そのような中でも、今年度は様々な工夫をしながら(オンラインなどを活用しながら)活動ができたことがあり、改めてPTA活動の重要性を感じた場面もありました。

また、今後のPTA活動のあり方について考える機会が増えました。家庭環境の変化、時代の変化、学校運営の変化、いろいろな変化の中で、今まで行ってきた活動が果たして良い活動

として継続できているかどうか、改めて見つめ直す機会です。見つめ直したことが今後、新たな形で子どもたちや学校に還元されていくようなPTA活動につながればと思います。

唯々できないことを嘆くばかりでなく、たまに後ろを振り返りながらも、常に目標を上げて。これからも学校の先生方や地域の方々と共に、子どもたちの成長を温かく見守っていきたいと思います。



統廃合にあたり

引き継がれるもの

福島市立東湯野小学校校長

瀬戸 和子

本校は、令和四年三月末を以て百四十七年の歴史に幕を閉じます。

素直で元気ではたらき者の子どもたちの輝くひとみ、子どもたちのために労を惜しまない保護者の皆様の熱い思い、そして、地域の子どもを地域で育てる東湯野地区の教育力は、新しい湯野小学校へ引き継がれます。

子どもたちと東湯野地区の輝く未来をご期待申し上げます。

地域・保護者に 支えられた立子山中学校

前校長 佐藤 信行

平成の時代、ソフトテニスで全国に名を轟かせた立子山中が昨年休校そして、この三月で閉校となります。ここ数年は、少人数となりましたが、保護者・地域の皆様のご協力により子どもたちは、伸び伸びと活動することができました。

これからも、地域や学校で学んだことに誇りをもち、ふるさと福島の未来を考え、行動できる大人へと成長することを願っています。



教養委員会

委員長 遠藤嘉邦
(渡利中)

「みんなちがって当たり前 あなたはあなたのままで百点満天」

(株)とうほうスマイル 就労アドバイザー
放課後等デイサービスむすび山下教室
療育アドバイザー

原美子



みなさんは、『もうひとつの成人式』をご存じでしょうか？

今年、福島市で新成人となられた方は約二千八百人だそうですね。一月九日にトヨタ・クラウンアリーナで成人式が行われました。福島市内の中学校を卒業されたほとんどの方は、こちらの成人式に参加します。

しかし、参加することが難しい方々もいらっしゃると思います。

三十二年前、障がいのある福島市内の支援学校卒業生のために、福島市手をつなぐ親の会による手作りの成人式『もうひとつの成人式』が始まりました。今年は二年ぶりに、ホテル福島グリーンパレスで福島市と共催で、福島市立ふくしま支援学校、福島県立大笹生支援学校、福島県立視覚支援学校、福島大学附属特別支援学校を卒業した新成人三十八名が参加し式典が開催されました。

この『もうひとつの成人式』は、二十歳を迎えられたご本人へのはなむけの式であ

る、ジョナゴールド、シナノリップなど数多くの品種があり、そのどれもがそれぞれに美味しく、それぞれの味わいがあります。その違いがまた魅力です。

人も同じだと思います。それぞれの違いが、魅力であり長所です。その違いをまるっと受け入れ、個性として認め合う。自分と違うからこそ、相手はどう感じ、どう考えているのか、知りたくなる。そこに相手を思いやる会話が生まれます。自分を大事にしてほしいのなら、相手も大事にする。相手を大事にしたいのなら、まず自分を大事にしましょう。

学校も含め世の中は、早いか遅いか、できたかできないか、点数取ったか取らなかった、順番をつけたか取らなかった、でも、困っている人に声を掛けたり手伝ってあげたり、みんな協力して何かを成し遂げたり、点数にならない、点数より大切なことがたくさんあります。世の中に出れば、点数より大切なことです。

前に前に、上に上にと、先急がないで、ちよつと立ち止まって自分の周りに目を向けてみましょう。雪の下から福寿草の芽が顔を出しています。登校する子どもたちのために、近所のお年寄りが雪かきをしてしてくれています。心をほっと温かくしてくれている日常に気が付くでしょう。

『みんなちがって当たり前
あなたはあなたのままで百点満天』なの



第69回福島県PTA研究大会・記念講演会(オンライン)

諦めず頑張れば出来ないことなどない

福島市小中学校PTA連合会

副会長 渡辺真紀 (北沢又小)

令和三年十月三日、第六十九回福島県PTA研究大会福島大会・七十年記念式典及び記念講演会がオンラインで開催されました。

ここで大会の内容などを書きたい所ですが、今大会は今までにないオンライン・チューブ配信になっております。厳かな式典と打って変わってかなり楽しい記念講演になりましたので視聴していただけたらと思います。



県連P平塚康晴会長あいさつ

活動が開始されましたがコロナ禍という事もあり「本当に開催出来るのか」と頭をよぎりました。まだ「新型コロナウイルス」というものを理解できていない状況と休校が明けて学校が始まったばかりで、臆病になつてしまつたばかり。当初の予定では、例年開催してきた大会の流れを軸に計画を立てておりましたが、度重なる「新型コロナウイルスの蔓延」に伴い変更が次々変更、「今度こそは大丈夫」と思つてもまたや変更を繰り返して心が折れそうになつておりました。

ですが、何度も何度も会議を重ねるうちに福島市連P齋藤会長や実行委員の皆さんの熱意、前へ向かって進んでいく思考や行動に後押ししていただき「コロナ禍だからこそ

出来る事を」という考えに到達する事が出来ました。更に、オンラインでの開催という選択が追加され

最後に、まだご視聴いただけていない会員の皆様ぜひご視聴いただければと思います。

令和四年三月末日まで配信予定になっております。記念講演は、是非お子さまと一緒に視聴されることをお勧めいたします。

配信内容

(1) 第六十九回福島県PTA研究大会福島大会・七十年記念式典

(2) 記念講演

講師 大友 良英氏

演題 「福島とつながつてきたことそしてそこからうまれたもの」

配信期間 令和三年十月四日・令和四年三月末日まで

視聴方法

(1) 県PTA連合会のホームページにアクセスし、動画URLを確認の上、視聴してください。県PホームページのIDは、パスワードは2023です。

(2) URLをクリックするとYouTubeに移動して視聴できます。

(3) タイムラインを選択して視聴することもできます。

家庭教育推進委員会

委員長 齋藤利行 (平石小)

オンライン全体研修会を終えて

令和四年一月二十九日、親業訓練シニアインストラクターの大屋弘子様を講師に迎え、家庭教育推進委員会全体研修会をオンラインで開催いたしました。

当日は「家庭教育は子どもの生きる力を育む原点」の題目で主に親子のコミュニケーション方法についてご講演い

ただきました。セミナーでは、親にありがちな一方的な指示・命令のような話し方を踏まえた上で、子どもの心を聞く聞き方・心に届く話し方を参加者の寸劇を交えてご指導いただきました。普段大人は子どもを「子ども扱い」しがちですが、子どもはあくまでも自分とは別

人格であり、我が子を大切な他者として捉え、子どもとのコミュニケーションでは相手の気持ちにそくむ能動的な聞き方が大切であると感じました。それが、子どもの自己肯定感や自己決定能力に繋がります。やがて生きる力として蓄積されていくものと再確認しました。その上で今後は、子どもの行動を見たま聞いたまま捉えた上で、その行動が与える影響や理由を具体的に伝え、その時の親の気持ちを率直に伝える話し方(わた



しメッセージ」セミナーでの用語を家庭内でも活か

していききたいと思います。
また、セミナー内でご指導
いただいたコミュニケーション
方法は、親子間だけでなく、
職場など他のシーンでも
活かせるものであり、大変有
意義な知識を得る事が出来ま
した。

研修会の開催にあたりまし
ては、当初は集合での研修を
予定しておりましたが、新型

健全育成委員会

委員長 佐々木 聡
(大笹生小)

今後の健全育成委員会の活動に関して

コロナ前においては平然と
行われてきた健全育成委員会
研究協議会ですが、教養委員
会の活動内容と似通ってしま
うことから、今年度の健全育
成委員会は次年度以降の活動
について協議を行う年となり
ました。十一月に行われた健
全育成委員会において、委員

財政委員会

委員長 大槻 秀一
(大森小)

令和四年度教育予算に関する要望書提出について

財政委員会では、新型コロナ
ウイルス感染症が拡大する
中、今年度も各単Pに要望書
に関するアンケートを行い、
「令和三年度教育予算に関す
る要望アンケート」を基に
「令和四年度教育予算に関す
る要望書」を作成いたしました。
まん延防止等重点措置が
福島市にも発令され、要望書
提出も実施できるか不安でし
たが、今年度も無事、十一月
二十二日に齋藤連合会長、財
政委員会より会長・副会長・

つ浸食され健全育成の活動に
影響が出始めております。こ
れは各委員会それぞれに言え
ることはありませんが、PT
A活動は子どもたちの学校環
境をより良いものにしていく
ことが活動の根幹となりま
す。その上で、時勢に合わせ
て変化していくことは重要で
あり健全育成という観点から
言えば、地域との繋がりが重
要となってきます。その地域
との連携を今後どのように図
るのがPTA会員数減少の
地域において重要なポイント
であると思われまふ。

進路対策委員会

委員長 菅 野 有加
(福島第四中)

子どもたちの進路実現に向けて

本年度の進路対策委員会では、
九月十七日に県北地区の
私立高等学校を訪問し、入学
試験にかかわる要望書を提出
し、

こういった各地域の特色を
踏まえ、次年度以降の健全育
成委員会の活動に関しては、
様々な声を取り上げることが
出来るような場を設ける予定
です。他の地域の声を聴くこ
とで、自分たちの地域に合っ
た方向を見出し、改善への糸
口としていけたらと考えてお
ります。それは以前にも増し
て学校間や地域間における連
携が深まることにも繋がって
いくことと思います。それら
は皆様のご協力が必要となり
ますので、今後とも宜しくお
願いいたします。

厚生委員会

委員長 橋 本 翔
(月輪小)

コロナの影響で今年度も中止...

昨年度に引き続き今年度も
ソフトボール大会とバレー
ボール大会が開催できません
でした。
コロナ感染症が広がり感染
の波が何度も押しよせてくる
中、波が収まった三ヶ月後
は、半年後には大会ができれば
と、思っていましたが大

広報委員会

委員長 齋 藤 智之
(飯野中)

「コロナ禍でのPTA活動アンケート調査結果」

「アンケートテーマ
コロナ禍でのPTA活動全
般について」
○調査実施概要
1、目的
新型コロナウイルス感染症拡
大防止の観点より今年度もP
TA活動に様々な配慮が必要
となりました。このような状
況下で現状を把握し、PTA
活動の課題や今後の取り組み

伝えることができたことは、
子どもたちの進路を考える上
でとても良い機会となりました。
長期化している新型コロナウイルス
感染症拡大により学校の
活動やPTA活動も制限せ
ざるを得なくなりました。保
護者も学校へ行く機会が少な
くなり、学校との関わりも
減ってしまった一年でした。
しかし先生方には、日々子ど
もたちの進路希望実現に向け
てご指導いただき、本当にあ

変残念ではありましたが中止
の判断となりました。
まだまだ予断はゆるしませ
んが、次年度各校の交流を深
められればと思います。開催
となった際には、多くの方
の参加をいただきます。
●結果
●感染拡大防止の為、参加人
数の制限と換気を徹底いたし
ました。理事会は委員長・副
委員長合わせて五十名が参加
していましたが、代表者一名
とし二十八名送りました。
ベルマーク活動は教室に三十
名が集まっていたが、広
い集会室へ変更し換気をしな
がら短時間で作業しました。
●感染対策が最重要である

りがとうございます。
どんな時でも子どもたちの
希望が叶えられるようにと願
い、親として最大限のサポー
トをしたいというのが私たち
保護者の思いです。
学校や家庭・地域の方々と
の連携を大切にして、このP
TA活動が子どもたちの輝く
未来へ繋がっていくことを願
い、進路対策委
員会の活動報告
といたします。

為、学校に保護者が集まらな
いよう、対面でのPTA活動
を極力中止・縮小したため、
保護者同士のコミュニケーション
が激減した。人付き合いが
苦手な人には良かったか
もしれないが、同じクラスの
保護者同士でも分らない人
が多いのではないかと。
●コロナ禍で空いた活動時間
を、活動全体を見直す時間
にしました。時代に合ったP
TA活動をしていく為、専門
委員会を必要なものだけに絞
り、内容も子どもたちの為
になる、更に親が参加し易い形
に革新中です。来年度から本
格運用予定。
●コロナ禍で子どもたちの行
事やイベントが中止になっ
たことで、何か子どもた
ちの記憶に残ることをしてあ
げたい気持ちが強くなり、四
十周年式典等出来ることを、
出来る範囲で活動し、無事に
バリンリリースを空に上げ
る事ができ、それに先生方が
協力的に動いてくれた事に感
謝しありません。
●コロナ禍によってPTA活
動は様々な制限と見直しを迫
られた。密を避ける為に制限

されていた活動は、感染状況によって戻らざる。一方で見直しとなった活動は新たな意義を持たせての再開となる。この機会にPTA活動の必要性を再確認する好機と捉えられないだろうか。

・コロナにより子どもたちの学校生活は一変しました。我々は子どもたちをサポートするべく、バザー収益に代わる寄付活動や学習発表会のオンライン運営等学校運営をサポートする活動に徹しました。この変化により得た経験を今後も活用しPTA活動を充実させていきたい。

・ことごとく活動が中止となり内心喜んでいました。しかし、学校と家庭の距離が一層遠のいたと感じます。何も無い状態に慣れてしまい、収束後にどこまで戻すか、必要な事業であったか等見直す機会でもあると捉え、コミュニケーションを取りながら軌道修正していきたい。

・コロナ禍でのPTA活動は事前に集まるという事が難しかったので、学校側と充分な打ち合わせが出来ず活動した部分もあった。各委員会の活動内容を見直し、会議（打ち合わせ）の開催方法の検討を行い、誰でも負担なく活動出来るよう学校側と知恵を絞ってきたい。

・PTA活動の根拠は先生と保護者と生徒の相互の繋がりにあると思います。会って話すという至極簡単な一番大切なことがコロナ禍ではできなくなっていました。総会や報告は書面でも出来ましたが、会って話せば一言で済むことがいかに大変だったか。改めてPTAという活動を見

全国小中学校PTA広報誌コンクール

文部科学大臣賞

この度は全国小中学校PTA広報誌コンクールにて三度目の文部科学大臣賞の栄誉を授かり、広報誌作成にご尽力いただきました関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

当校広報誌は、生徒の学校生活・PTA活動を保護者や地域の皆様に伝える場として、楽しい情報提供の一翼を担っております。今年度もコロナ禍の影響により様々な学校行事やPTA活動が制約されてしまいましたが、紙面づくりの伝統でありますアンケートを基に学校生活を広く周知できたと思っております。

今後も活きた学校の情報や生徒の様子を保護者や地域の皆様に伝えます。PTA活動や学校行事等も従来通りの実施へ戻す物もあれば、変化に合わせ調整が必要な物もあると思います。PTAもこの機会を契機に今後の在り方を検討し、何が子どもたちや学校の為に最良な形なのかを模索して行く時期なのかもしれません。今後PTAも児童生徒の健全な成長を図り、学校と協力し、教育に関して理解を深め、その教育振興の一助となればと思います。

最後に、アンケートにご協力頂きました皆様に深く感謝し、御礼とさせていただきます。



皆様にお届けできるよう、本部署員・広報委員共に努力して参りたいと思っております。引き続き、引き続き当校広報誌「KOMOREBI」を宜しくお願い致します。

令和3年度
福島市小中学校PTA連合会
広報誌コンクール受賞校

小学校の部

- ◎最優秀校 福島市立下川崎小学校
 - 優秀校 福島市立清明小学校
 - 優秀校 福島市立三河台小学校
 - 優秀校 福島市立岡山小学校
 - 優秀校 福島市立平田小学校
- 中学校・特別支援学校の部
- ◎最優秀校 福島市立飯野中学校
 - 優秀校 福島市立渡利中学校
 - 優秀校 福島市立蓬萊中学校
 - 優秀校 福島市立平野中学校

福島市小中学校PTA連合会PTA広報誌コンクール

小学校の部

マスクでの活動が多く、表情が伝わりにくい生活が続いています。そんな生活の中でも、子どもたちの元気な笑顔や頑張っている姿を広報誌で伝えたいと思い、写真選びやレイアウトなどを話し合い、作成してきました。

今回、最優秀賞という素晴らしい結果に感謝します。PTA活動や学校行事等も従来通りの実施へ戻す物もあれば、変化に合わせ調整が必要な物もあると思います。PTAもこの機会を契機に今後の在り方を検討し、何が子どもたちや学校の為に最良な形なのかを模索して行く時期なのかもしれません。今後PTAも児童生徒の健全な成長を図り、学校と協力し、教育に関して理解を深め、その教育振興の一助となればと思います。

中学校の部

福島市連合PTA広報誌コンクールにて最優秀賞という栄誉にあずかり誠にありがとうございます。今年度も多くの制約がある中での活動ではございましたが、写真やアンケートを中心に学校生活を掲載し、生徒とPTA会員を繋ぐ広報誌をお届けする事が出来ました。今後も親しみやすく、より躍動感が伝わる広報誌を目指して行きたいと思っております。ご協力賜りました委員の皆様、誠にありがとうございます。

とができる事をチャンと捉え、良い部分は残しつつ、大人も手も組み学び進んでいきたく改めたいと思っております。

令和3年度市連P広報委員名簿

No.	学校名	会員名
1	杉妻小学校	佐藤 信治
2	笹谷小学校	菅藤 光洋
3	蓬萊小学校	阿部 努
4	蓬萊東小学校	齋藤 清美
5	南向台小学校	松浦 洋三
6	清明小学校	一戸 里美
7	金谷川小学校	遊佐 哲
8	福島第一小学校	赤間ゆかり
9	平石小学校	丹治 真吾
10	福島第一中学校	齋藤 友則
11	蓬萊中学校	丹治 清
12	信陵中学校	菅藤 重幸
13	飯野中学校	齋藤 智之
14	福大附属特別支援	森久保 勇

年度が、コロナに耐性のあるさらに進化した社会となるよう願っております。

(副委員長 菅藤)

